

研究課題 (テーマ)	よろずレポート相談所(年次を超えて学生同士が教え合い学びあう教育)		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	知能ロボット工学科	准教授	塚越 拓哉
	知能ロボット工学科	准教授	野田 聖太郎
	知能ロボット工学科	講師	松本 賢太
研究結果の概要			
<p>本教育プログラムでは TA に携わる学生らを対象とし、実験・演習等に関わるレポート執筆などの専門的な内容に未習熟な学部 1~3 年生を指導するための方法を学んでいただいた。既に TA の経験のある大学院生と新規 TA とがともに参加する形で、実験・演習等に参加してもらい、学部生を実践的に指導する形で、指導方法を学ばせた。</p> <p>本プログラムを遂行する過程において、一部の学生が実験の理論的背景を理解しないまま実験に参加していると、実験担当教員から指摘があった。そこで、実験内容を一部変更し、あるいは次年度に変更するための準備を行い、履修する学生が背景にある理論や動作原理をより深く理解するための工夫を進めた。</p> <p>新入生オリエンテーション、ロボット創造演習、知能ロボット工学実験 1 および 2 において、新規 TA に向けた実験内容等の説明をするとともに、演習・実験においては履修生への指導を実践してもらうことで、経験を積んでもらった。</p> <p>本来の目的である TA の指導技術の向上を効果的に果たすことができた。TA を務める大学院生らは同様の実験を数年前に経験しており、履修生たちにより近い目線で接することができるため、細かな説明などに関しては教員が学ぶ点も少なくなかった。TA 自身の指導力についても、例年以上の向上が見られた。</p> <p>本プログラムの遂行を通して、実験・演習を担当する教員間のコミュニケーション機会も増加し、毎週テーマを進める中で、注意や観察が必要な学生の情報を共有することができた。また、長年続けてきたために内容がやや陳腐化した実験テーマがあったので、内容を一新すべく、担当教員間で検討を進め、必要な実験機器を導入した。</p>			
今後の展開			
<p>今後も継続して TA の指導力向上のための施策を遂行し続け、学科の教育水準の向上に寄与するとともに、少なくとも実験や演習についていけない学生はゼロにすることを目指す。学生の指導に関して TA から学ぶこと、担当教員間のコミュニケーションの重要性など、本プログラムで得た「気づき」を、教育の質の向上のために活用する。</p>			